

解説

附属高等学校

タイトル：附属高等学校の部活動を通じたコンピテンシー育成—アフガン・ボランティア部の活動を通して—

顧問：沼畑早苗 教諭

解説タイトル：

ボランティア活動を通じたエージェンシーの育成 —アフガン・ボランティア部の実践から—

コンピテンシー育成開発研究所
特任講師 Claudia Gherghel

附属高等学校アフガン・ボランティア部の活動は、生徒の自発的な社会貢献活動を通じて「エージェンシー」の育成を図る実践である。エージェンシーとは、「自ら課題を見出し、周囲と協働しながら社会に働きかける力」を指し、未来を主体的に切り拓いていくための基盤的な資質である。エージェンシーは、他者や社会との関わりの中で自分の役割や可能性を実感しながら育まれる性質をもつため、あらかじめ答えのある課題に取り組む教科学習だけでは十分に育成することが難しく、自ら問いを立て、行動し、社会的な意義を見出していくような経験が不可欠である。

アフガン・ボランティア部では、2024 年度に 64 名の生徒が所属し、台湾地震の募金活動や小児がん支援のレモネード販売、子ども食堂でのボランティア、農業支援、コンタクトレンズケースの回収など、実に多様な取り組みを展開している。いずれの活動も、生徒自らが企画書を作成し、顧問の協力のもと、教員会議での承認、保護者の同意取得を経て、活動後の報告までを生徒が担っている点に特色がある。

こうした実践は、単なる善意のボランティアを超え、社会課題に対する問題意識をもち、具体的なアクションに落とし込む思考力と行動力の涵養につながっている。生徒たちは、困っている他者の存在に気づき、何ができるかを考え、仲間と協働して行動し、その成果や課題を振り返るという、エージェンシーの発揮に不可欠なプロセスを体験している。このようにアフガン・ボランティア部の活動は、教科学習では得難い実践的な学びを通じて、生徒が社会の一員として自分の力を自覚し、未来をつくる主体者へと成長する場を提供している。